

令和7年度 倉敷市立工業高等学校 学校自己評価表

<p>1 生徒理解をすべての教育活動の根幹とする。(生徒理解) (1) 生徒の未来シートや生徒連絡会の充実 (2) GoogleWorkspace等を活用した支援体制の充実 (3) SC・SSWと連携した多様な生徒への支援の充実</p> <p>2 主体的に学ぶ喜びを体感させる。(授業) (1) ものづくり教育やICTを活用した授業の充実 (2) 教科横断的な連携による基礎学力の充実、全教員を対象とした公開授業の実施 (3) 自己評価やルーブリックを活用したパフォーマンス評価手法の推進</p>	<p>3 自己肯定感を持たせる。(自主) (1) 生徒会活動、クラス活動、委員会活動、部活動など自主的活動の推進 (2) 地域連携、社会貢献活動の推進 (3) 生徒の活躍を積極的に情報発信するなど広報活動の充実</p> <p>4 将来の自分の姿を描かせる。(進路) (1) キャリアパスポートの有効活用と体系的なキャリア教育の実践 (2) 就労支援による「働きかつ学ぶ」という生活スタイルの確立 (3) 各種検定の取得に向けた取組の推進 (4) 地元企業見学や出前事業など体験的な学習をおとした進路指導の充実</p>		
<p>経営目標</p>	<p>最終評価</p>	<p>最終評価</p>	<p>次年度へ向けた課題</p>
<p>生徒理解</p> <ul style="list-style-type: none"> 特別指導の件数は、交通指導2件(2名)、生活指導6件(9名)であった。指導に関する配慮事項などについて、生徒連絡会での情報や担任との連携を共有しながら行った。(生徒課) 校内研修会(OJT)にて、特別な教育的支援を必要とする生徒の理解と指導・支援について外部講師に来ていただき、学びの場を設けた。生徒を支援する引き出しを増やすきっかけとなった。(生徒課) 倉敷市補助金を活用した県外への学校訪問を実施した。多様化する生徒に対しての支援や指導の在り方について学ぶことができた。(生徒課) 健康診断の受診率は眼科95.7%(R6:88.6%) 歯科97.1%(R6:100%) 尿検査98.6%(R6:100%)、内科95.7%(R6:94.3%)、心電図、胸部レントゲンは昨年同様100%であった。欠席気味の生徒の動向が影響している。(庶務課) 学校自己評価アンケート(生徒用)「生徒の人権」「教員相談」の結果は両方とも肯定的な回答が80%以上だった。(人権相談課) 各種調査やアンケート、情報共有等の有効なフィードバックを通して、教員と生徒の良好な人間関係の構築に努めることができた。(人権相談課) 生徒連絡会や学年団討議を通して生徒支援を目的とした情報共有を図ることができた。(人権相談課) 「未来シート」やhyper-OU講習会による生徒理解や学級経営への有効活用を図ることができた。(人権相談課) 多様な生徒に対応した実習の班編成など個人やクラスの状況を考慮し、適切に行うことができた。(機械科) 非常勤の先生方に生徒情報を共有した。(機械科) 欠課が多いなどの理由で成績不良になりうる生徒の情報共有を図った。(機械科) 学期ごとにクラスごとの科集会を行った。(機械科) 生徒連絡会だけでなく、普段の職員室内での教員同士の連絡を密におこなうことができていた。その情報をもとに、生徒への声かけや資格指導、課外活動への取り組みに繋がっている。(電気科) 特別指導の回数が5回だったが、学年団、生徒課と連携して適切な対応を続けた。(1年団) 特別指導案件がだが、それ以外では、定期的な面談と、必要に応じて行う生徒面談を通じて生徒の状況を把握できた。(2年団) 生徒の指導について、保護者と面談および連絡をとりながら、生徒課と連携してスムーズに行うことができた。(3年団) 普段から保護者と情報共有をしっかりとすることができた。(3年団) 1学期中に2回の三者面談を行い、家庭での様子や進路について情報交換をすることができた。(4年団) 	<p>B</p> <ul style="list-style-type: none"> 同じ生徒が特別指導に該当する傾向がある。特別な支援を必要とする生徒に対する日常的な声掛けや観察を粘り強く行う。(生徒課) 研修会などへの積極的参加を行い、校内での情報共有や活用できる場面を増やす。(生徒課) 健康診断未受検者、要治療・要精密検査の対象者への早期受診を促す。(庶務課) 生徒連絡会の充実(人権相談課) 科集会や科内での情報共有で生徒理解を深め、教員から投げかけているが、なかなか生徒に響いていない現状があり、取り組みに参加する生徒が限定されている。今後も進路を見据え、生徒に取組の意義を伝えていく必要がある。(機械科) 継続して、情報交換をおこない複数の教員で生徒指導に自然にあたる環境・関係の構築をつとめていく。(電気科) 生徒ひとりひとりの状況を学年団で定期的に共有する。(1年団) 引き続き、生徒の状況を把握し、学年団で共有して生徒指導に活かす。(2年団) 引き続き、学年間で情報共有を行うとともに必要に応じて学年団会議を実施する。また、保護者とも情報共有を密に行っていく。(3年団) 生徒と保護者が家庭で話ができない場合があるので、学校で機会を設定することが必要である。(4年団) 		
<p>授業</p> <ul style="list-style-type: none"> 学校自己評価アンケート(生徒用)における学習に関するすべての項目で評価が◎であった。(教務課) 授業規律を維持することが困難な生徒や、支援・配慮を必要とする生徒が在籍しているため、空き時間には担任や教科担当の要望に応じて授業見学を行ってきた。(生徒課) 授業時間に関わらず、休憩時間等も可能な限り校内を巡回した。(生徒課) 学校自己評価アンケート(生徒用)「内容が分かりやすく、たのしい授業が多い。」に該当する項目の結果は肯定的な回答が80%以上だった。(人権相談課) 生徒の状況把握に努め、教員間だけでなくSC、SSWとも連携し多様性に対応した学習指導の工夫・改善を図ることができた。(人権相談課) 実習系科目では最初の授業で実習への取り組み方・ルールや安全作業についてガイダンスを行い、各ショップでも安全作業について注意を与えることで周知徹底した。(機械科) レポートの書式やルーブリックの改善・検討を年度末・年度初めに行った。(機械科) 機械科フォルダにて、授業資料の共有を行い、内容を生徒に合わせて改善していくことで、更なる授業の充実を図った。(機械科) 整理整頓、清掃ができており、安心安全な授業を取り組むことができていた。(電気科) 安心安全な授業の取り組みとして、熱中症対策として作業服として、ポロシャツを導入した。(電気科) 未履修者は0人であった。(1年団) 未履修が確定した生徒2名については、進路変更に向けて保護者、本人と話し合いを持てた。未履修は確定していないが、かなり欠課時数が多い生徒がおり、学年末まで気が抜けない状況である。(2年団) 成績不振の生徒や、遅刻・欠席の多い生徒に対し、指導を行うとともに、保護者面談も行いながら進めることができた。また、教科担当とも情報共有を確実に進めていくことができた。(3年団) 多くの生徒が進路実現に向けて出席状況を改善することができたが、改善することができなかった生徒もいた。(4年団) 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 活用事例などを教員間で共有し、ICT機器の活用を推進する。(教務課) 校内の規律を維持することができない生徒に対してのアプローチを継続的にを行い、担任と連携を図りながら支援していく。(生徒課) 安全作業には普段の健康管理が重要な部分もある。食事や水分の補給などがきちんとできていなければ、安全に実習を行うことが困難である場合もある。このような視点での指導も今後必要である。また、ルーブリックについては今後も検討する。(機械科) 実習機器が古くなり、正しい値を測定することができない機器がある。計画的な更新をおこなう。実習環境の改善を進めていく。(電気科) 進級にむけて、適切な指導を行う。(1年団) 出席状況が進路に及ぼす影響について、繰り返し伝えながら指導していく。(2年団) 引き続き、成績及び遅刻・欠席の理由を確認し、指導を行うとともに保護者との情報共有も密に行う。また、教科担当と情報共有を確実に進めていく。(3年団) 進路決定後に欠席日数が増えた生徒がいたので、1年間を通した目標を持たせる必要がある。(4年団) 		
<p>自主</p> <ul style="list-style-type: none"> 昨年度よりも資格検定を受験する生徒が増加した。(教務課) 市工祭体育の部について、天候不良によりグランドコンディションが万全ではない中ではあったが、教員で連携を図り、円滑に行事の実行を行うことができた。また、生徒からの声も吸い上げ、新たな競技にもチャレンジできた。(生徒課) 各講演会(LHR)について、心身の健康や安全への理解促進に繋がることができた。(生徒課) 生徒会執行部が中心となり、現行の校則(装飾品)について生徒の意見を集約し、状況に応じて改定を求めている。現在試行期間中である。(生徒課) 校誌については予定の工程で無事発行の予定で現時点進んでいる。(庶務課) ものづくりコンテスト(溶接)やゼロハンカー大会などの競技会に参加し、その結果などを学校ブログで広報した。(機械科) 企業連携を行い、その内容を新聞で紹介していただいた。また、地域の三斎市に出展し、その内容をブログ等で紹介する予定である。(機械科) 資格取得などの優れた成果を学校ブログなどで紹介した。(機械科) コンテストや競技会へ出場していた。(11人/32人) (電気科) <ul style="list-style-type: none"> 5月 高校生ものづくりコンテスト電子回路組み立て部門 E3 1名 8月 みらいミーティング(E3 3名)、高梁川未来人材育成事業 夏のセミナー(E4 2名) 10月 工業探究フォーラム(E4 4名参加) 11月 JMCR2026中国地区大会(E4 4名参加) 12月 倉敷市長表敬訪問(E4 2名)、探究フォーラム(E3 2名参加) 1月 JMCR2026全国大会(E4 2名参加)、テクノフォーラム参加予定(E3 2名、1A 2名)、山陽RSKラジオ取材(E2 2名参加)、高梁川未来人材育成事業 発表大会(E4 3名参加予定) 1つ以上の資格取得者が75%(16人中12人)であった。(1年団) 全員が、アルバイト、部活動、検定、その他自分の決めた何かに取り組んでいる。(2年団) 資格検定において、第2種電気工事士1次試験3名、基礎製図検定2名、技能検定3級機械検査作業1名の合格者がいる。(3年団) 部活動やものづくり競技会に参加した生徒が9名いる。(3年団) 総合的な探究の時間において、外部行事に3名の生徒が自主参加し発表を頑張った。(3年団) 部活動では7割以上の生徒が参加し、大会等へも積極的に参加することができた。(4年団) 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 資格検定の情報発信を積極的に進める。(教務課) 生徒が主体的に発案できる場を設け、活発な生徒会行事にしていくよう支援する。(生徒課) 講演会・安全教室については、講師の選択を課内でも検討し、これまでとは違った視点も検討していく。(生徒課) さらなる業務の効率化を目指す。(庶務課) 機械科の特徴的な取組を学校ブログや外部メディアなどを使い、広報できていることは今後も継続していくべきと考える。(機械科) 4年生を中心に積極的に校外活動をし、今年度も「ものづくり」を中心とした取り組みをおこなえた。校外での活動は生徒の成長に大きく影響している。引き続き取り組めるように生徒、教員への負担を増やさないスムーズな世代交代とスケジューリングが課題である。(電気科) 1つ以上の資格・検定取得者が80%以上となるよう声掛けを行う。(1年団) 3年生が色々なことに取り組める最後の学年であることを意識させ、充実したものとできるよう支援する。(2年団) 引き続き、各種の取り組みを促し、目標に挑戦している生徒には学年団教員で補習などのサポートをしていく。(3年団) 引き続き部活動への積極的な参加を促す。(4年団) 		
<p>進路</p> <ul style="list-style-type: none"> 規範意識が低い生徒も在籍しているため、個別に声掛けを行い、生活習慣の確立に努めた。(生徒課) 頭髪指導において、クラス担任と連携を密にし指導にあたった。(生徒課) 進路課内の役割分担を明確にし、効率的に業務が行えている。(進路課) キャリア教育として、「進路ガイダンス」「着こなし講座」を実施した。「進路ガイダンス」では今回初となる「物」を使っての企業によるガイダンスを行い、企業をより詳しく知ることができ進路意識の向上が図れ、生徒の進路選択に役立っている。「着こなし講座」では「ビジネスマナー」と「スーツの着こなし方・ネクタイの結び方」の講習により生徒の社会人への意識の向上につながった。(進路課) 求人票は昨年以上に増え1400件を超えた。集計・データベース化に「HANDY」を使用している。求人票の処理についてバーコードリーダーも使用し効率的に業務が行えた。(進路課) 4年生の進路については、2名進学、16名就職となった。就職では数名1次募集でご縁が無いことになったが、2次募集で良い結果を得ることができた。1名 進学・就職決まっていなかったが家庭の事情により卒業後転居し決めていくこととなった。(進路課) 進路に向けてのインターンシップも実施できた。(進路課) 1、2年生を対象に工場見学を実施し、進路意識の向上や進路選択を含めたキャリア教育ができた。(進路課) キャリアパスポートの定期的な活用は出来ている。本年度から校外での行事に対しての記入欄を追加している。(進路課) 「先輩を囲む会」では、本年からリモートを利用して全学年に視聴してもらうことができた。(進路課) 「進路講演会」では、働く前に知っておくことについて外部講師に講演していただいた。(進路課) 高校卒業後の進路に向けて、学校全体としての細やかな指導や生徒個々への対応など検討していく必要もある。(進路課) 補助金申請については該当者のうち希望生徒6名について適宜指導することができた。(庶務課) 学校自己評価アンケート(教員用)「就職・進学など生徒一人ひとりの個性を尊重した決め細かい進路指導(キャリア教育)がなされている」に関連する項目の結果は肯定的な回答が80%以上だった。学年団討議の中で、各生徒の進路志望等を学年団で確認することができた。(人権相談課) 希望通りの進路実現ができるよう、担任・進路課と協力し、機械科として面接練習などを行った。(機械科) 資格取得や競技会への参加を生徒に促し、よい結果が得られるよう、積極的に補習を行った。(機械科) マスター制度を活用し、技術が仕事に生かせるよう実感できるように配慮して指導を行った。(機械科) 進路に目が向けられるよう、企業と連携した授業を行った。(機械科) 資格を受検する生徒が5名以上いる。(電気科) <ul style="list-style-type: none"> 第1種電気工事士(E3 1名合格) 第2種電気工事士(E3 3名受験 1名筆記試験のみ合格 2名合格、M3 1名合格) QC検定3級(E4 1名受験)、QC検定4級(E2 1名合格) 計算技術検定3級(1A 2名合格)、計算技術検定4級(1A 2名合格、1B 1名合格) パソコン利用技術検定(E4 2名受験) 就労率が50%(16人中8人)であった。(1年団) 面談等を通し、進路を考えるようになり、就職か進学かを迷う生徒は残り2名になった。(2年団) 生徒および保護者に対し情報提供を積極的に行うことができた。生徒は進路ガイダンスやインターンシップに参加することで、自身の進路について考えさせることができた。(3年団) 全員の生徒が希望する進路を実現することができた。(4年団) 	<p>A</p> <ul style="list-style-type: none"> 継続的に規範意識の向上を図ると同時に、前段階として発達支持的生徒指導の充実に努める。(生徒課) 例年通り、該当者の便宜を図ることを継続する。(庶務課) 卒業後までを見据えた段階的・計画的な支援・指導を考える(人権相談課) 今年度は工業系の進路に進む4年生が多く、実際に合格してくれたことで、下級生にもこの流れが及んでほしいと思っている。そのためには、4年生がどのように進路決定に臨んでいったのか、伝える必要もある。資格取得も進路の武器として、今後一層取得に向けて取り組みたい。(機械科) 他科の教科指導に関わることができよかった。引き続き学びたいものへの窓口を開き、科、学年を問わず、指導できる関係を構築していく。(電気科) 学校生活とのバランスを生徒と相談しながら、就労をすすめていく。(1年団) 進路決定に向けて、求人票の確認等を行うなど、具体的にイメージできるよう指導していく。(2年団) 自身の進路が未だ未決定の生徒もいるので、引き続き、生徒面談を通してキャリア発達の支援をしていく(3年団) 試験対策が不十分な状態で受験した生徒もいたので、就職試験に対する意識を改善する必要がある。(4年団) 		